

処方箋医薬品<sup>注)</sup>

# パンテニール注100mg パンテニール注250mg パンテニール注500mg

PANTHENYL INJ.

貯 法：室温保存

使用期限：ラベル及び外箱に表示

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

	100mg	250mg	500mg
承認番号	21800AMX10653	21800AMX10652	21800AMX10654
薬価収載	2006年12月		
販売開始	1990年7月	1972年2月	1978年4月
再評価結果	1992年6月		

**【禁忌（次の患者には投与しないこと）】**  
**血友病の患者** [出血時間を延長させるおそれがある。]

## \*\*【組成・性状】

### 1. 組成

本剤は1管（1mL、2mL）中に下記成分を含む。

	パンテニール注 100mg	パンテニール注 250mg	パンテニール注 500mg	
容 量	1 mL	1mL	2mL	
有効成分	パンテノール	100mg	250mg	500mg
添加物	クエン酸水和物	3.78mg	3.78mg	7.56mg
	pH調整剤	適 量		

### \*\*2. 製剤の性状

本剤は無色澄明の水溶性注射液で、pH及び浸透圧比は次のとおりである。

	パンテニール注 100mg	パンテニール注 250mg	パンテニール注 500mg
pH	4.5～6.5		
浸透圧比 (生理食塩液に対する比)	2.0～2.5	5.1～5.8	

## 【効能又は効果】

- パントテン酸欠乏症の予防及び治療
- パントテン酸の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、甲状腺機能亢進症、妊産婦、授乳婦等）
- 下記疾患のうち、パントテン酸の欠乏又は代謝障害が関与すると推定される場合
  - ・ストレプトマイシン及びカナマイシンによる副作用の予防及び治療
  - ・接触皮膚炎、急・慢性湿疹
  - ・術後腸管麻痺上記(3)に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

## 【用法及び用量】

通常、成人にはパンテノールとして1回20～100mgを1日1～2回、術後腸管麻痺には1回50～500mgを1日1～3回、必要に応じては6回まで、皮下、筋肉内又は静脈内注射する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

## 【使用上の注意】

### 1. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

	頻度不明
消化器	腹痛、下痢等

### 2. 小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。

### 3. 適用上の注意

- 投与時**：副交感神経興奮剤（ネオスチグミン等）使用後は12時間、また、サクシニルコリン投与後は1時間の間隔を置いて投与することが望ましい。
- 筋肉内注射時**：筋肉内注射にあたっては、組織・神経などへの影響を避けるため、下記の点に配慮すること。
  - 神経走行部位を避けるよう注意すること。
  - 繰り返し注射する場合には、例えば左右交互に注射するなど、注射部位をかえて行うこと。  
なお、乳児・幼児・小児には連用しないことが望ましい。
  - 注射針を刺入した時、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は、直ちに針を抜き、部位をかえて注射すること。
- アンプルカット時**：本品は一点カットアンプルを使用しているため、アンプルカット時にはヤスリを用いず、アンプル頭部のマークが真上にくるように持ち、反対側へ折ること。なお、カット時に異物混入を避けるため、カット部分をエタノール綿等で清拭し、カットすることが望ましい。

### 4. その他

低カリウム血症、機械的腸閉塞症の患者には臨床効果は得られない。

## \*【薬効薬理】

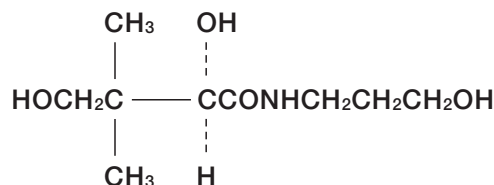
生体内にとり入れられたパンテノールは、体内で容易に酸化されてパントテン酸となり、さらにCoAの構成成分となり、広範な代謝に関与する。CoAは炭水化物、脂肪の代謝においてアセチルCoAとなり、活性化アセチル基の転移を起こす。<sup>1)</sup>

## \*【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：パンテノール（Panthenol）

化学名：D-(+)-2, 4-Dihydroxy-N-(3-hydroxypropyl)-3, 3-dimethylbutyramide

構造式：



分子式：C<sub>9</sub>H<sub>16</sub>NO<sub>4</sub>

分子量：205.25

性状：無色～微黄色の粘稠な液体又は白色の結晶性の塊又は無色～微黄色の粘稠な液体と白色の結晶性の塊の混合物で、わずかに特異なおいがあり、味はわずかに苦い。水又はエタノール（95）と混和し、ジエチルエーテルに溶けにくい。水溶液（1→20）はアルカリ性である。吸湿性である。

旋光度： $[\alpha]_{D}^{20}$ ：+29.0～+32.0°（脱水物に換算して0.5g、水、10mL、100mm）

**\*【取扱い上の注意】**

**\*安定性試験**

最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度75%、6ヶ月）の結果、パンテニール注100mg、パンテニール注250mg及びパンテニール注500mgは通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。<sup>2)3)</sup>

**【包装】**

パンテニール注100mg 1 mL（100mg）×50管

パンテニール注250mg 1 mL（250mg）×50管

パンテニール注500mg 2 mL（500mg）×50管

**\*【主要文献及び文献請求先】**

**\*〈主要文献〉**

- 1) 第十七改正日本薬局方解説書, C-4032, 2016
- 2) 共和クリティケア社内資料：安定性試験（2016）
- 3) 共和クリティケア社内資料：安定性試験（2017）

**〈文献請求先〉**

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

共和クリティケア株式会社 学術情報フリーダイヤル

〒112-0006 東京都文京区小日向4-2-8

TEL 0120-265-321

FAX 03-5840-5145